



図6 器械台の配置
器械台に準備する器械の数を少なくすることにより、器械に視線を落とすことなく手渡すことができます。



統一されたインプラント確認手順
(実際に使用しているもの)

インプラントを出すときは・・・

- ① 外回り看護師がDrに、「種類・サイズ」を声出し確認！
- ② 器械出し看護師と外回り看護師二人で目で見て声出し確認！

声出し確認は必ず以下の順番で！！

<p>TKA</p> <p>部位(大腿骨・脛骨・パテラ・インサート)</p> <p>左・右</p> <p>種類(PS・CR・CS)</p> <p>セメント NONPOROUS:ノンポーラス</p> <p>セメントレス POROUS:ポーラス</p> <p>サイズ</p>	<p>THA</p> <p>部位 (臼蓋・ライナー・骨球ボール・ネック・大腿骨)</p> <p>種類</p> <p>サイズ</p>
---	---

- ③ 器械出し看護師はインプラントを渡す前に、Drに声出し確認！

手順に沿って
ダブルチェック！

図7 インプラントの用意の実際
外回り看護師とともに手順に沿ってダブルチェックを行います。

日々取り組んでいることと思いますが、器械台に準備する器械の数はより少なくできます。器械の数が少なくなることで、視線を落とすことなく指示されたものを手渡すことがより容易になります (図6)。

手術に用いるインプラントは、前述のとおり手術

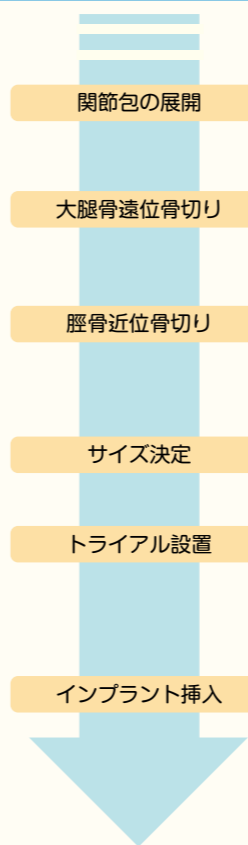
に応じて準備し、手術室内に持ち込みます。実際に術野で用いる際には、手術に用いたトライアルのサイズ表記とインプラントの外装のサイズ表記を、外回り看護師とともに手順に沿ってダブルチェックを行い、準備しています (図7)。

準備



ドレーピングの用意は
抜けなく、効率よく、工夫

手術手順



骨切り開始前は術野をしっかりと見て必要な器械を予測

どの器械を使う？

外回り看護師はどんな状況？

インプラントサイズは
どうなる？

切除した脛骨をトライアルと合わせ、適切なものを医師に手渡す

インプラントを
用意できている？

インプラントは
間違っていない？

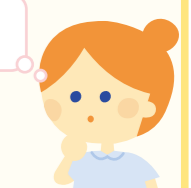


図8 手術中に判断していること

器械出し看護師からは術野だけでなく、手術室全体がよく見えます。熟練看護師は、この視野全体から、術野からの情報だけでなく、患者のバイタルサインなどの情報や、外回り看護師が業務に追われていないか、手順や術野の状況を理解したうえで手術看護を行うこ

とができているかなどの状況を把握し、優先順位を判断しています (図8)。

器械出し看護は、言語化し他人に伝えることが難しいものですが、熟練看護師はさまざまなことを同時に判断しながら安全かつスムーズな手術に貢献しています。